

〈テーマ〉

光への旅、さまざまな境界をこえて

〈講演者〉

リディア・ミッシュクルニク
Lydia Mischkulnig

オーストリア現代の作家。ヴァイトゲンシュタイン以来の言語批判的文体の伝統に連なる数々の作品を世に問うてきたが、同世代の中でも、現代社会のさまざまな暗部を抉る問題意識を俎上に載せて創作活動を続けてきた。



〈講演要旨〉

「光への旅」というモチーフで、越境の問題を取り上げる。すなわち突然に文化的にまったく別の領域に移動すること、異文化圏に移動することが何をもたらすか。周縁の、おそらくは東欧圏から、かつての帝国首都であったウィーンへ流入する者は、そこに定住者として居着く可能性を持ちながらも、また、ハプスブルク帝国自体が多民族国家であり、またウィーンもさまざまな人種の垣根的な側面が否定し難いにもかかわらず、その移動によって何らかの人格上の障碍といわないまでも刻印を押されることの有無について。またそのトラウマ的とも呼び得る独自の影が、はたして文学上の旅によって、すなわち文学活動、創作活動によってどのように解決されるか。そのころみについて幾つかの角度から検討する... ..

日時： 2010/12/13 (月) 18:30-20:00

場所： 明治大学 駿河台校舎

アカデミーコモン 309H教室

言語：ドイツ語

通訳：なし

〈セミナー推進者〉

須永 恒雄 法学部専任教授

1981年ギムナジウム卒業
1981-85年 グラーツ音楽・表現芸術大学修了(舞台装置に関する論文により修士号取得)
1986-91年 ウィーン音楽芸術大学修了(映画・脚本・制作に関する論文により修士号取得)
1991年- フリーの作家活動
1995年- 英語圏諸国(英国、USAなど)に仕事で何度も滞在。
2005年および2006年 ブリュッセル(スイス)の国際文学館に滞在(亡命作家ジャン・アメリー・シンポジウムおよびジャン・アメリー記念碑創設プロジェクト主宰)
2008年よりウィーン造形芸術大学の非常勤講師を務める。
主要な受賞歴：
ベルテルスマン出版文学賞(バツハマン賞コンテスト入賞)1996
オーストリア国家文学奨励賞2000
文学雑誌マヌスクプテ賞 2002
エリアス・カネッティ奨励賞 2007

